

令和 6 年 6 月 3 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01639

研究課題名（和文）多市場間の相互作用と企業の戦略的行動に関する経済分析

研究課題名（英文）Economic Analysis on Firms' Strategic Behavior in Multi-market Competitions

研究代表者

服部 圭介 (Hattori, Keisuke)

青山学院大学・経営学部・教授

研究者番号：50411385

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、複数市場に直面する企業の戦略的行動について、1) 異時点のマーケットにおける消費者行動と企業戦略、2) 労働・金融・共有資源市場との相互作用、の2テーマを設定し理論分析を行った。  
その結果、市場への参入順序、企業間の価格共謀、共有資源（地球環境など）を持つエージェント間の部分提携、チーム生産における労働者間の社会的交流、純正・汎用品の市場競争など、様々な状況での企業やプレイヤーの戦略的行動が社会厚生に与える影響を明らかにした。  
研究期間中に4本のワーキングペーパーを公刊し、国際査読雑誌に投稿中である。また、2本の論文が国際査読雑誌に掲載され、3件の国際学会報告（審査あり）を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、複数市場に直面する企業の戦略的行動が社会厚生に与える影響を、異時点のマーケットや労働・金融・共有資源市場など多角的に分析し、市場への自由参入、価格共謀、共有資源での部分提携、チーム生産における社会的交流、純正品と汎用品の競争などに関する新たな理論的知見を提供した点にある。  
また、現実の経済で観察される現象（価格共謀や参入阻止行動、国際環境協定や模倣・コピー品の市場）を対象とし、企業の戦略的行動が社会厚生に与える影響を明らかにするとともに、望ましい公的規制のあり方を検討した点で、本研究は経済政策立案に資する重要な社会的意義を持つと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The research project focused on the strategic behavior of firms facing multiple markets, with two main themes: 1. consumer behavior and firm strategies in markets at different points in time, and 2. multiple markets, including labor, financial, and common resource markets. The study conducted theoretical analyses on these themes.  
The findings revealed the impact of various strategic behaviors on social welfare, such as free entry into markets, price collusion among firms, partial coalitions among agents with common resources, social interactions among workers in team production, and market competition between genuine and generic products.  
During the research period, four working papers were published and submitted to international peer-reviewed journals. Additionally, two papers were published in international peer-reviewed journals, and three presentations were made at international conferences (with screening).

研究分野：応用ミクロ経済学

キーワード：寡占理論 公共財供給 企業行動 多市場接触

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、複数の市場に直面する企業の戦略的行動の分析を目的とした。1970年代以降、ゲーム理論を用いた産業組織論の理論研究が進展し、複数市場で活動する企業の行動を分析することが可能になった。しかし、そうした状況における企業の戦略的行動が市場成果や経済厚生に与える影響については十分に明らかにされていなかった。

そこで本研究では、(1)異時点のマーケットにおける消費者行動と企業戦略、(2)労働・金融・共有資源市場との関わりを含む複数市場、という2つのテーマを設定し、複数市場における企業の戦略的行動を理論的に分析することを目指した。これらのテーマに関連する先行研究としては、動学的価格設定、ネットワーク外部性のある財の価格設定と普及、シグナリングゲームを用いた戦略的参入阻止等に関する研究蓄積がある。しかし、本研究のように複数の市場を同時に考慮した包括的な分析は十分に行われていなかった。

また、企業の戦略的行動に加えて、共有資源を持つエージェント間の部分提携や、チーム生産におけるエージェント間の社会的交流など、企業以外の経済主体の行動も分析対象とする。こうした広範な研究により、現代経済における複雑な市場の相互関係をより深く理解することができると考えられた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、複数市場に直面する企業やその他の経済主体の戦略的行動を理論的に分析し、その市場成果や経済厚生への影響を明らかにすることである。

具体的には、以下の5つの点を主な目的とする。

1. 市場への自由参入を前提とした場合に、企業の市場参入の順序が社会厚生に望ましくない影響を与える可能性を理論的に明らかにする。
2. 費用非対称な寡占企業間の具体的な価格共謀の交渉過程を考慮し、どのような産業でどのようなタイプの価格共謀が起こり得るのかを明らかにする。
3. 共有資源を持つエージェント間の部分提携が、技術発展を妨げる可能性があることを明らかにする。
4. チーム生産におけるエージェント間の社会的交流が、チームの生産性を高めるメカニズムを明らかにする。
5. 純正品と汎用品の市場競争において、純正品企業の戦略的行動を考慮した場合に必要な公的規制のあり方を明らかにする。

これらの目的に共通するのは、複数市場における企業やエージェントの戦略的行動の分析を通じて、市場メカニズムの機能と限界を明らかにし、望ましい経済厚生の実現に向けた経済政策のあり方を探ることである。現代経済の複雑性を踏まえた理論分析により、経済学の発展と現実の経済問題の解決の双方に貢献することを目指す。

## 3. 研究の方法

全ての研究テーマにおいて、ゲーム理論を援用した合理的個人の戦略的行動の理論モデルを構築し、その均衡における定性的特徴を分析するという方法を用いた。

モデルの構築にあたっては、現実の経済問題を踏まえつつ、理論分析に適した簡略化を行った。例えば、企業の戦略的参入行動の分析では、コブダグラス型効用関数を用いることで、参入順序が社会厚生に与える影響を明確に示した。社会的交流の分析では、社会的交流の程度を連続変数としてモデル化し、交流の最適水準を内生的に導出した。広告戦略の分析では、消費者の認知の歪みを広告に対する反応関数として定式化することで、比較広告の厚生効果を明示的に評価した。

これらの理論モデルの構築と分析を通じて、複数市場における企業やエージェントの戦略的行動が市場成果や経済厚生に与える影響を包括的に明らかにした。さらに、望ましい経済政策のあり方についても考察を行った。

## 4. 研究成果

本研究課題では、複数の市場に直面する企業の戦略的行動について、(1)異時点のマーケットにおける消費者行動と企業戦略の分析、(2)労働・金融・共有資源市場との関わりを含む複数市場の分析、の2つのテーマで理論分析を行った。

まず、企業の参入順序が社会厚生に及ぼす影響を分析した。市場への自由参入を前提とすると、

企業の市場参入の順序が、社会厚生観点から望ましくない可能性があることを示した。具体的には、費用優位な企業が先に参入することで、後発企業の参入阻止行動を弱め、社会厚生を低下させる可能性を明らかにした。

次に、社会的交流が企業のチームパフォーマンスに及ぼす影響を分析した。水平的チームでは、社会的交流が相補的タスクのパフォーマンスを高めるが、代替的タスクでは低下させることを示した。垂直的チームでは、高い向社会性を持つリーダーの下で相補的タスクを行う場合にのみ、社会的交流がパフォーマンスを高めることを明らかにした。

また、企業の広告戦略と参入阻止行動の関係性を分析した。比較広告と技術的参入障壁が、正規品メーカーの利潤を高める一方で、社会厚生を低下させる可能性を示した。さらに、広告規制や参入規制が望ましい場合があることを明らかにした。

さらに、環境保護を巡る企業間提携の形成について分析した。部分提携が技術発展を妨げる可能性を示し、全面的な協調の方が望ましい場合があることを明らかにした。

これらの成果は、1～3 で述べた本研究課題の目的に沿って、企業の戦略的行動が市場成果や経済厚生に与える影響を多角的に分析し、新たな理論的知見を提供するものである。特に、(1) 異時点のマーケットにおける企業の参入行動、(2) 労働市場におけるエージェント間の社会的交流、(3) 製品市場における企業の広告・参入阻止行動、(4) 共有資源を持つエージェント間の部分提携、など現実の経済で観察される現象を対象とし、望ましい公的規制のあり方を検討した点に本研究の特徴がある。得られた知見は、複数市場が相互に影響を及ぼし合う現代経済の複雑性を理論的に解明し、経済学的发展と現実の経済問題の解決の双方に貢献するものと考えられる。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Keisuke Hattori, Keisaku Higashida	4. 巻 138
2. 論文標題 Who should be regulated: Genuine producers or third parties?	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Journal of Economics	6. 最初と最後の頁 249-286
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s00712-022-00808-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wolfgang Buchholz and Keisuke Hattori	4. 巻 135
2. 論文標題 A Paradox of Coalition Building in Public Good Provision	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Economic Modelling	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.econmod.2024.106722	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Keisuke Hattori	4. 巻 110800
2. 論文標題 Profit-Sharing vs Price-Fixing Collusion with Heterogeneous Firms	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 MPRA Paper	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Keisuke Hattori and Mai Yamada	4. 巻 104640
2. 論文標題 Welfare Implications of Sequential Entry with Heterogeneous Firms	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 MPRA (Munich Personal RePEc Archive) Paper	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Keisuke Hattori and Mai Yamada	4. 巻 117677
2. 論文標題 Closing the Psychological Distance: The Effect of Social Interactions on Team Performance	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 MRPA (Munich Personal RePEc Archive) Paper	6. 最初と最後の頁 1-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Keisuke Hattori
2. 発表標題 Closing the Psychological Distance: The Effect of Social Interactions on Team Performance
3. 学会等名 27th Annual SIOE (Society for Institutional & Organizational Economics) Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Keisuke Hattori
2. 発表標題 Profit-sharing vs price-fixing collusions with heterogeneous firms
3. 学会等名 49th Annual Conference of the European Association for Research in Industrial Economics (EARIE 2022) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Keisuke Hattori
2. 発表標題 A Paradox of Coalition Building in Public Good Provision
3. 学会等名 International Conference of Public Economic Theory (PET 2022) (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	Regensburg University			